

第五章 観 光

第一節 市内観光

滝川は、大雪連峰から流れる石狩川と、日高山脈の清流を運ぶ空知川が出会うところに在り、早くから中空知の中核都市として栄えてきた。豊を敷きつめたような美田、広々とした牧場、グリーンベルトが続く河川敷、絵のように美しい牧歌的な風景は、先人たちの努力のたまものである。滝川市はこの自然条件と市民の知恵とを融合させた観光事業をすすめ、産業振興と市民生活の向上につながるよう努力してきた。

「滝川」の地名でありながら市内には自然の滝は見当らず物足りない思いもあったが、「滝」を積極的に創り出し、水・川・滝に親しみ、自然とのふれ合いをめざした観光事業を開基百年を契機として精力的に取り組んでいる。

水郷滝川公園

例年五月の「さくらまつり」は、長い冬から解放された市民にとって大きな活力を与えてくれる楽しい公園として定着してきた。季節ごとに草花が咲き乱れ安らぎと調和をもたらず場でもあり市民の健全行楽地となった。

文人国木田独歩の碑文と、歌人石川啄木の歌碑に接し、昔を偲び現代を考えるよすがとなり得る場所でもある。

北泉岳寺北海道四十七義士の墓

四十七義士の墓の土を分霊とし、高輪泉岳寺と同一の墓建設再現を認められ、昭和三十一年完成、同年十月十四日開眼供養を行った。

以来、毎年十二月十四日に、滝川・砂川両市の有志が集まり、赤穂四十七義士の義挙に思いを馳せ、世人の安寧と地域発展を祈願するため、義士に扮し肅々と隊伍を組み、墓前にぬかずき義士の遺徳彰揚することを習風とし、昭和三十年から行われてきた。今では一般の人々の参詣も多く名所のひとつとなっている。

道立滝川畜産試験場



義 士 祭

九〇〇ヘクタールの広大な大牧場で東滝川に所在、国道三八号「羊の里マルカロード」で休憩後、西の方向にすすむと間もなくのところ、羊や豚の飼育、飼料作物の試験研究を行っている。

緑の大草原にのんびりと群れて遊ぶ羊たち、駆け回る護羊犬、牧童の口笛、まさしく大自然の一幅の名画のような世界が

広がっている。

(注 第八編第一章第十四節参照)

滝の川運動公園

昭和三十四年に公園造成がなされた滝の川公園は、永らく市民逍遥の場として親しまれてきた。また、滝川屯田兵の練兵場として利用されてきた隣接地は、各種スポーツ施設が整えられ、市民の体力づくりや各種競技大会等に利用が多く、滝の川運動公園として、憩いと体力向上の場として親しまれている。

(注 第九編第三章第三節参照)

丸加高原

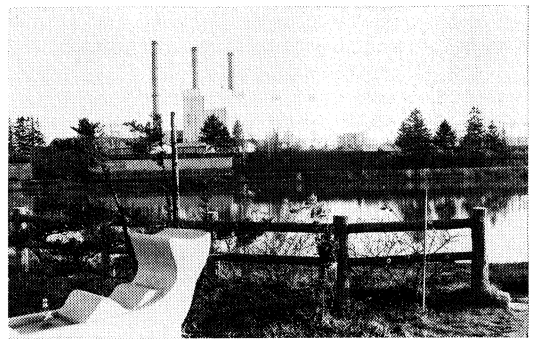
昭和四十七年、畜産振興事業として開発がすすみ、広大な市営牧場に牛や馬が放牧され、展望台、駐車場、牧羊用石造サイロ(市有形文化財)、自然の家等の施設整備が行われてきた。

平成二年八月、健康の郷として丸加高原を位置づけ、従来の施設に加えて丸加高原伝習館を新設した。これは新農業構造改善事業のひとつとして、豊かな自然を活用して青少年や都市生活者等が農業と農村生活を体験し、都市と農村の交流を深め農業の活性化を図ることをねらいとして設けられたもので、農産物加工の体験実習、宿泊研究など、さわやかふるさと体験村を目指している。

なお、リゾート開発として、ゴルフ場、ホテル等の造成建設が具体化しつつある。

航空公園

滝川市のグライダーは全国的に有名になったが、空を飛ぶことだ



池の前水上公園



北海道の森植樹風景

けではみんなのものと云えず、空を飛ばない人が家族連れで来ても空を知り、空と遊ぶことが出来、楽しく過ごせる公園をめざして造成工事がすすめられている。

石狩川河川敷の滑空場を中心に、隣接する中島町にかけての九六・五ヘクタールに五つのゾーンを造成し、スポーツや散策、遊び場やゲームなど、市民の憩いの場になる予定で、平成十年の完成を目指している。

(注 第九編第二章第三節参照)

池の前水上公園

滝川市開基一〇〇年記念のプロジェクトとして、石狩河畔の滝川リバーサイドパークの整備がすすめられている。これは、石狩川治水事業八十周年を記念して同地区に川の科学館が建設されることに

呼応し、「百年の滝」を造成しようとするものである。幅一〇〇メートル、高さ一〇メートルの壮大な瀑布が水しぶきをあげる日も近い。すでに造成された東公園の滝と、美術自然史館前庭の滝と合わせると、市内に三つの滝ができることになる。真に「滝川」の名前が生きていることになる。

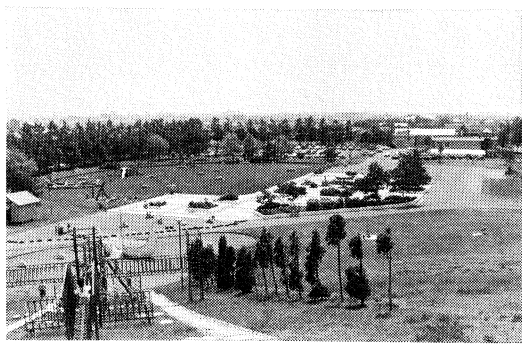
池の前水上公園は、八五・九ヘクタールの広がりの中に、水と川と森、そして人とのふれ合いの広場として平成五年の第一期工事の完成をめざし進捗中である。

なお、同地区内に「北海道の森」造成のため植樹作業も順次計画的に進行している。

北電公園

北海道電力滝川火力発電所は、昭和三十五年から稼働をはじめ、全道一の出力をもつ火力発電所として本道の産業発展と道民の生活上に寄与するとともに、滝川市の財政再建にも大きく貢献してきた。滝川火力発電所では、昭和三十九年から石炭の残灰を野積みしてきたため灰公害の聲が高まってきた。昭和四十八年、滝川市は長期に亘りこの地を借り受けたことを背景に、都市計画公園の指定を受け、灰山に土木工事残土等を堆積して草地の造成と植栽をして緑地化し、児童専用の野球場を設置したり、ミニ動物らんどを開設して児童生徒の動物愛護の精神と更には観光・憩いの場として充実させるため着々と整備をすすめる、市民の利用も年を追うごとに多くなり好評を得てきた。

滝川市は、開基一〇〇年を記念するにあたり、北海道電力が一



北電公園

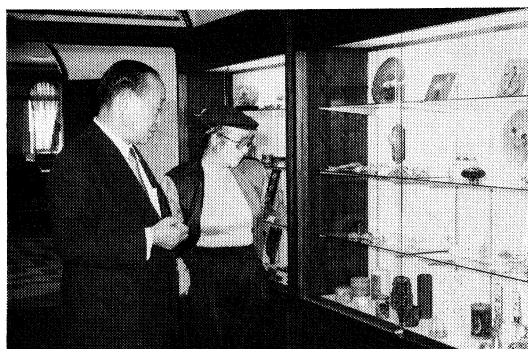
二・六ヘクタールに及ぶこの地を市に寄贈したことから、一〇〇年記念塔をこの公園の丘に建設することとした。展望台を兼ねたこの記念塔は、高さは丘から五二メートルで、展望台床面が海拔一〇〇メートルに設計されておき、滝川市内はもちろん、石狩川の悠久の流れ、航空公園を含めたりバーサイドパークが眼下に広がり滝川のシンボルトワーとしての勇姿に市民の期待は大きかった。平成三年一月完成した。

チョッチャンコレクション

(文京町一丁目一市民会館内)

昭和六十三年九月、滝川出身の黒柳朝から、これまでにコレクションしたものをふるさと滝川市にと寄贈された。これは日ごろからヨーロッパに旅行することが多かった朝が、旅先において買い求めたもので、十九世紀末に製作されたものが多く、近代ヨーロッパの雰囲気을漂わせている。

花ビン類、鉢物、時計(各種)、大壺、ローソク、ブローチ、バッグ類・水がめ・絵皿・ブロンズランプ・レース人形等、その数五三〇点に及び、時価によると一億円は悠に超す貴重な品々である。また、長女徹子も母にならない自ら蒐集した数々の品を寄贈し、母娘の



「チョッちゃんコレクション」
をみつめる黒柳朝と吉岡市長



チョッちゃんロケ風景

コレクションが市民会館に展示され供覧されている。

更に同年十二月、市民会館階段踊り場に特注のステンドグラスが贈られ彩りを添えた。図柄は朝がふるさと滝川の情景を思い浮かべながらデザインさせたもので、コスモスやプラタナス、ナナカマドの木や花の中をとり交う鳥たちや、石狩川・空知川の流れと滝川の山々がうつし出され、季節や時刻、天候によるそれぞれの陽光によって微妙にその趣きを変え接する人々を楽しませ、そのすぐ前に展示されているドイツ製の大きな置時計風オルゴールの豊かな音色と調和し別世界に引き込まれる。このステンドグラスは、全部で一、二〇〇ピース（部分）で絵が構成されており、使われたガラスはすべて



ふれあいセンター（江部乙フルーツ農園）

に陶酔する姿が多くみられるようになってきた。

江部乙フルーツ農園

国道十二号を北上し、江部乙市街の入口付近の江部乙東十一丁目の信号を右折し丘陵に向い約一キロすすむとフルーツ農園に行き着く。

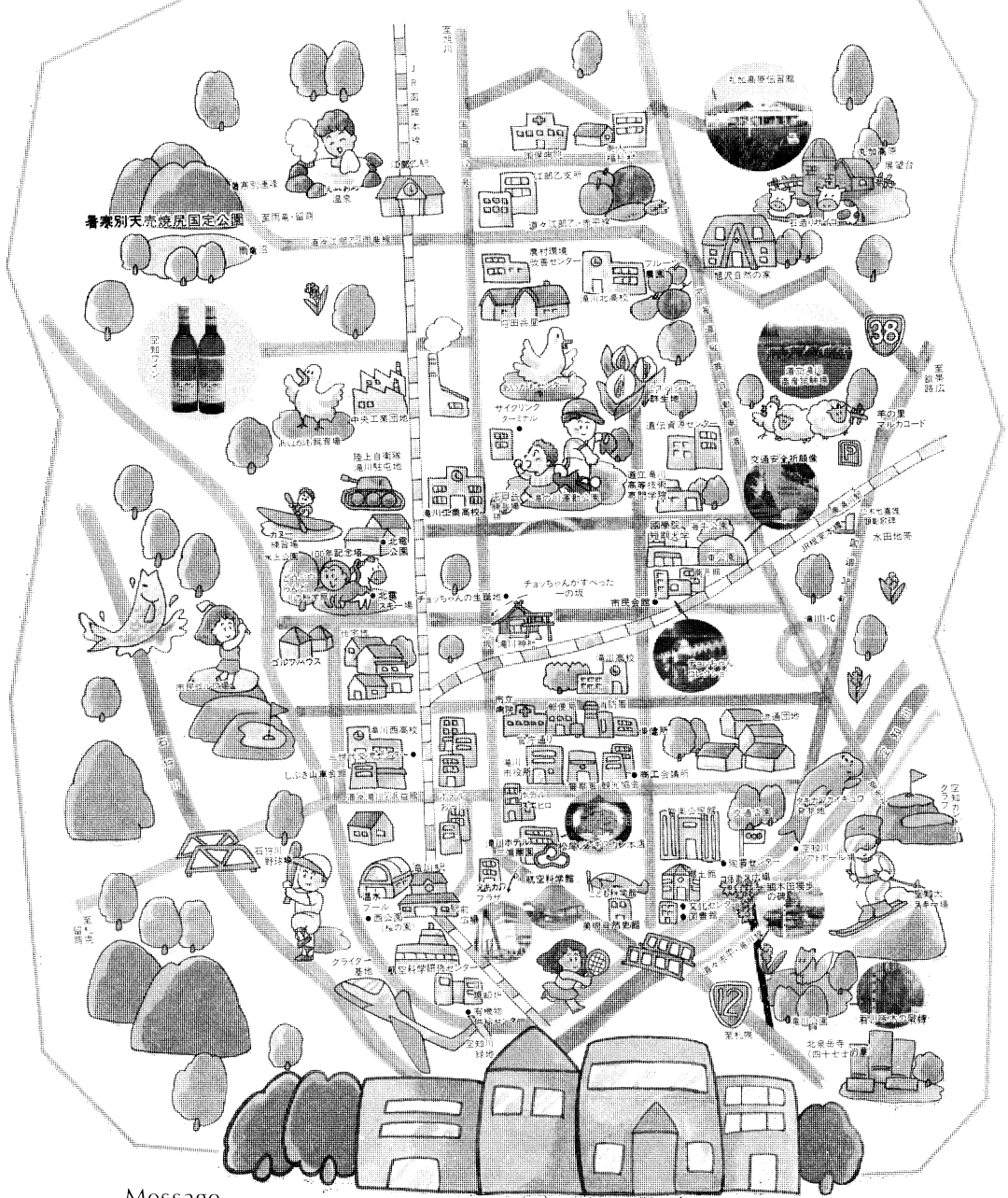
この農園は、果樹をとりまく情勢が厳しく、恒常的な生産過剰、外国産品の輸入攻勢、消費の伸び悩みなど多くの課題を抱えている。いっぽう世相は道路網の整備とともにモータリゼーション化によって余暇を活用し都会の雑踏から逃れて自然を求める傾向の多いことから、果樹を基軸として畑作物も含めオールシーズン観光農園に衣替えし、昭和六十年から新しい産地形成を目ざし発足したものである。一四戸の農事組合員が、フルーツ農園生産組合をつくり、

輸入ガラスで約八〇〇枚、国内に数あるステンドグラスの中でもこれほど多彩なガラスを使ったものは他に類を見ないものと評価は極めて高い。

NHK連続テレビ小説「チョッちゃん」は、日本人々の心を揺り動かしたが、その感激を今一度思い出そうと、道内外の観光団体が市民会館に立ち寄り、チョッちゃんコレクション

TAKIKAWA TOWN MAP

第五章
観
光



Message

改植や新品種研究、小果樹の苗木養成から生産、販売まで連けいして運営している。

このフルーツ農園の特色は、子どもからお年寄りまでファミリーで快適な環境の中において楽しめること、もぎ取り園、オーナー制、野菜の収穫の喜びにより春から秋まで農業体験が出来、自然食を味わえること、ビジターセンター建設により農産物の提供、収穫したばかりの農産物を食べられる機会を提供できること等で、取り扱われる産品は、リンゴ・ナシ・イチゴ・ジャガイモ・サクランボ・アスパラガス・メロン・スイートコーン・クリなど多種多様で、五月から十月まで豊かな果木や果実の匂う見晴しのよい丘の上で心ゆくまで楽しめる農園である。

社団法人・たきかわ観光協会

昭和三十四年に発足した滝川観光協会は、日本経済が高度成長に向かう背景の中に組織され、滝川の活力ある歩みとともに推移してきた。

しかし、生活の向上、余暇時間の拡大、交通網の整備拡充、車の普及など目まぐるしく変化する観光指向と、地域産業としての再認識から昭和五十七年から五十九年の二年間にわたり、滝川商工会議所が中心となり、滝川の観光を考える会を設置、新たな観光事業の推進と組織確立について検討し提言が行われた。

この提言に基づき昭和五十九年十二月、全市民の協力と支援を基盤にした「たきかわ観光協会」が発足し、協会の財政的基盤の確立をすすめる、事業内容も、新しい祭り「しづき祭」の企画と実施、継

続事業の拡大、来街客へのサービス向上事業等裾野の広い活動を続け確実に業績を積み上げてきた。

観光協会の推進する諸事業は、公益性が高くかつ地域社会との深いかかわりから、昭和六十三年民法に基づく法人化への移行が提言され、平成元年度の通常総会の議決を経て許可申請を行った。

平成二年四月二十四日、道知事より社団法人の認可をうけ、これを機会に滝川産経会館一階に独立した観光協会事務所を開設した。

今後、成熟化社会・国際化・多様化を迎える各地域における観光事業は一段と激化する方向にあるが、今後官民一体となって取り組まなければならない事業だけに、たきかわ観光協会の果たす役割とリーダーシップは極めて大きく、市民の期待するところ大である。

・会員数 四三三名(平成二年六月現在)

・歴代会長

初代 吉岡 清栄(昭五九・一二
六三・一五) 二代 塩尻 一郎(昭六三・六
現在)

第二節 滝川市の周辺観光

滝川市を起点にして、バスや車を利用して訪れることのできる中空知広域圏の観光地をあげると、

芦 別 市(芦別温泉・北の京芦別) 国道三十八号線

地域の九〇パーセントが森林という芦別は、昭和五十九年「星の降る里・芦別」を宣言、自然環境にも恵まれ、自然的・人工的観光レクリエーションの施設の多いところで、富良野・芦別道立自然公園をはじめ「北の京(みやこ)芦別」の十二支公苑、ユニークなホテ

ル五重の塔、銘石大浴場をはじめとしたバラエティに富んだ各種大浴場、高さ八メートルの世界一を誇る大観音像など、楽しさを満喫できる。

市街地から車で一〇分ほどの山あいには芦別健民センター「芦別温泉」がある。北海道で唯一の国民保健温泉地で、八種類の浴槽を整備、体育館・テニスコート・プールなどのスポーツ施設が無料で使える。昭和六十二年にはシンボルタワーも完成、翌六十三年にも新しいスタイルの温泉施設「星遊館」がオープンした。

平成二年、ラベンダー畑の中に、名作「赤毛のアン」の世界を再現した「カナディアンワールド」がオープン。カナダの特産物のショッピング、グルメスポット、どれも本格的なもので诗情豊かである。

赤平市（エルム森林公園・エルムスポーツゾーン） 国道三十八号線

市の北にそびえるエルムケップ山の山麓は、シラカバ・ナラ・カエデなど広葉樹が繁茂し山菜の宝庫でもある。この地に森をテーマにした森林公園を造成、平成二年にオープン。この公園には四種の森があり、木製の遊具や自然観察塔など、子どもからお年寄りまで誰でもが自然に親しめるような施設がととのっている。

赤平山研修センターを中心としたエルムスポーツゾーンは、恵まれた自然に囲まれ、交通の便も良く、サッカーやラクビーをはじめテニスコート・野球場・スポーツセンター・総合体育館、柔・剣道が行える武道館などである。

また、冬には空知管内屈指の広さを有する赤平山スキー場があり

スキー愛好者たちに親しまれている。

砂川市（子どもの国） 国道十二号線

水郷滝川公園で「国木田独歩の碑」、「石川啄木の碑」に空知川の诗情を味わい、北泉岳寺において「赤穂四十七義士之墓」に詣で、石山の方向に向かう。

「道立子どもの国」には宿泊二〇〇人収容の道立自然の家をはじめとし、レストハウス・冒険広場・森のとりで・河のとりで・野外ステージなど多くの施設や遊具が設置されているほか、炊事場・水道施設も完備、一〇〇人収容可能なキャンプ場もある。

石山を中心に広がる一九二ヘクタールに及ぶ道立子どもの国は、道立の都市公園で豊富な野草や樹木につつまれ、小さな動物や小鳥たちが生息している。また、ピラミッドや万里の長城など世界七不思議に数えられる建物もあり、子どもならずとも好奇心をくすぐられる。

歌志内市（かもい岳スキー場・悲別ロマン座） 道々赤平砂川線

市の東部に位置する「悲別ロマン座」は、テレビドラマ「昨日、悲別で」に登場以来、全国から若者が訪れ、ロマン座保存会のユニークなイベントを通して地元との交流もさかんになった。標高四七メートルのかもい岳自然公園には、レストハウス、展望台、鹿放牧場、キャンプ場などがあり、森林浴、ハイキングに最適。山頂では中空知はもとより遠く十勝連峰なども見渡せる大パノラマが広がる。

また、冬にはかもい岳スキー場としてスキーや、チロリアンロデ

ル(木製そり)が楽しめ、毎年大勢の人々にぎわう。

奈井江町(ないえ温泉ホテル北の湯) 国道十二号線

「天与の温泉」として名高いないえ温泉は、硫黄を含むナトリウム炭酸水素塩泉で、高血圧、リウマチなど多くの症状に効用があるといわれ、以前から多くの人々に利用されていた。平成元年、建物の老朽化が進んだことから新しく建築「ホテル北の湯」としてオープンした。

モダンな建物の大浴場でゆったりと温泉につかれば、疲労は一気にとれると好評である。

上砂川町(上砂川岳温泉・日本庭園) 道々芦別砂川線

渓谷と原生林に囲まれた上砂川岳温泉は良質な重曹泉で神経痛、リウマチ、皮膚病などに効能があることで人気が高く昭和四十六年「国民休養地」北海道第一号として環境庁の指定を受けた。

温泉のすぐ前は二、〇〇〇メートルのダウンヒルを誇る上砂川岳国際スキー場、また、隣接の沢に自然美を巧みにとり入れた日本庭園がある。「野鳥の橋」を渡りながら小鳥のさえずりに耳を傾け、日本庭園に入ると滝・石庭が眼につく。秋田杉・赤エゾ松・水松が見事な枝ぶりを見せる静ひつな空間に、三段落ちの滝がすがすがしい水音を訪れる人々にきかせてくれる。

テレビドラマ「昨日、悲別で」のロケ地となったJR上砂川駅には終着駅「かなしべつ」の看板が立っており、今なお若い旅人たちが架空の町、悲別を訪れる。

三井砂川礦閉山後の立坑を利用し、世界最大規模の無重力実験セ

ンター建設が着々と進められ、上砂川の新しいシンボルとして注目を集めている。

浦臼町(鶴沼公園) 国道二百七十五号線

昭和四十八年自然休養村の指定をうけ、全町挙げて産業公園のまちづくりを目指している。保養、レクリエーション施設では鶴沼公園がある。ここではテニス、ボート遊び、ゲートボール等が楽しみ、休養センターでの休憩、宿泊。特産のワインや牛肉料理など地元名産をたっぷり味わえる。

また、リゾート開発事業として浦臼山でのスカイスポーツが活目される。上昇気流にのって、ハンググライダー、パラグライダーなどでの大空散歩は快適そのものである。また、クレール射撃場が設置されており、ライセンスを持つ人々に好評である。

新十津川町(ふるさと公園) 道々滝川浜益線

町の中心から南西へ約四キロのところにあるふるさと公園は、新十津川の大レクリエーション基地である。ナイター設備完備の野球場をはじめ、テニスコート、フィールドアスレチック、野外ステーション、ポニー牧場、更に、近代的なスポーツセンター、水泳プール、青少年交流キャンプ村等の施設が広大な台地に整えられている。

また、全国でも珍しい昆虫や植物をテーマにした「むしむしランド」が平成二年にオープン、自然観察や体験学習ができる。更に、国民年金健康保養センター「グリーンパーク・しんとつかわ」もふるさと公園内にあり、ふるさと温泉として町内外の利用者は多く、好評を得ている。

雨 竜 町（雨竜沼と南暑寒別岳） 道々江部乙雨竜線

暑寒別岳を中心とした一帯は道立自然公園の指定であったが、平成二年八月、暑寒別・天売焼尻国定公園に昇格した。この公園域内標高九〇〇メートルにある雨竜沼湿原帯は、尾瀬沼に匹敵する高層湿原で、大小一〇〇余りの湖沼群が点在する中に、湿原性の植物、高山性植物がみられ、限りなく清らかな雰囲気を感じることができる。

また、南暑寒別岳を辿りながらの登山道では、白竜の滝や雨竜沼などのすばらしい景観を堪能でき、暑寒別岳の頂上に立つと晴天の日は遠く利尻富士を眺めることができる。

